NIIGATA COLLEGE OF NURSING
PORTICO
vol.26
2015.1
新潟県立看護大学ニュース　ポルティコの広場

「桜蓮祭を終えて」

平成26年度第13回新潟県立看護大学桜蓮祭は、「笑顔～Share from the heart～」をテーマに掲げ、開催しました。昨年の桜蓮祭では、多くの学生が地域との関わりを実感し、より地域に貢献し、医療・看護を活性化しようという意欲と向上心を感じることができました。今年度も、そのような地域の方々との関わりがより一層深まり、本学の魅力に気づいていただけることを期してこのテーマに決定いたしました。

看護において、人との関わりの中で信頼関係を構築することは非常に重要であり、笑顔はそのシンボルともいえるものだと思います。これは、講義や実習だけで学べるものではありません。今回の学園祭を通した交流の場も重要な学びの場であると考えています。そのため、この桜蓮祭を通して、学生それぞれが看護職として更なる一歩を踏み出すことができればと思い、またそのような場を提供できるよう計画運営して参りました。

さて、今回の桜蓮祭では、今年度開業予定の北陸新幹線を記念した桜蓮祭ウルトラ企画として「北陸新幹線ウルトラクイズ」を行いました。ゲストとして、上越忠義隊けんけんずも出演し、盛り上がりを見せていました。また、毎年恒例で行われるエアロビ、ダンス、よさこいのサークルが日ごろの練習の成果を発揮した一般公開など、今年度も様々な企画により、活気ある桜蓮祭が実現されました。さらに、「ハカレンジャー」による健康測定や災害看護サークルによるハンドマッサージなど、地域に根差した看護大学としての活動や看護学生として培った知識と技術或いは経験を地域の方々に提供することもできました。当日は、これらの企画を通して、ご来場頂いた多くの参加者の方々の笑顔溢れる様子をみることができました。今回のテーマ「笑顔～Share from the heart～」は達成され、無事幕を閉じることができたと考えております。

最後になりますが、今回の桜蓮祭の開催にあたり、企画・運営まで様々な方々からのご協力を頂きました。この桜蓮祭運営を通してご協力いただいた地域の方々と事業者様並びに各教職員実行委員及びサークル員、協力頂いた学生の有志の方々に、実行委員会委員長としてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

もくじ

1　桜蓮祭を終えて
2　オープンキャンパス
継燈式
高田祇園祭り
ホーチミン医科薬科大学を訪問して
3　ホーチミン医科薬科大学を訪問して
ふれあい実習を終えて
4　基礎看護学実習を終えて
総合実習を終えて
5　上越地域看護研究発表会
地域課題研究発表会
新教員紹介
6　災害看護サークル
よさこいサークル
7　陸上競技サークル
バレーサークル紹介
8　新潟県立看護大学振興協力会設立総会
ウォーキング＆健康づくり体験
いきいきサロン
編集後記

オープンキャンパス

体験演習風景

8月1日、26日にオープンキャンパスが行われました。今年度は、看護大学特製カレーの提供やダンスサークルの実演等普段の学生生活の様子が伝わるような内容とし、県内・県外から併せて365名の方々から参加して頂きました。参加された方からは、「在学生がすごく仲よさそうに見えた」「こんな先輩がいるなら入りたい」「体験内容が豊富で、この大学に来てみたいという気持ちが芽生えた」等の声を頂きました。

継燈式

7月2日に2年生が先輩から看護の灯を受け継ぐ継燈式を行いました。実習施設の指導者の方々や先輩方からの看護に対する思いをしっかりと引継ぎ、看護者として更に邁進することを誓いました。

高田祇園祭り

7月25日の「高田祇園祭」の民謡流しに、学生63名、教員12名の計75名が参加しました。写真のように法被や浴衣、うちわ等お揃いにし、一致団結して踊ることができました。また、元気で明るい看護大の学生達の様子を見て、地域の皆様から、温かいご声援を頂きました。

ホーチミン医科薬科大学訪問

ホーチミン医科薬科大学を訪問して

今年の8月に約1週間、ベトナムのホーチミン医科薬科大学を訪問し、今後の交流に向けての話し合いに同席させていただきました。訪問時には、看護学科長のホア先生をはじめ、みなさん笑顔で迎えてくださいました。話し合いは、現地の大学の先生に通訳をしてもらいながら行われました。実際に現地の方との話し合いに同席し感じたことは、ホーチミン医科薬科大学の国際交流や日本の看護、技術を学ぼうということへの意欲がとても高いということです。ホーチミン医科薬科大学は本校だけでなく、日本の様々な大学とも締結や国際交流を行っており、すでに実習生の受け入れなども行っているとのことでした。実際に、話し合いの後はホーチミン医科薬科大学附属病院やチョーライ病院を訪問しました。ホーチミン医科薬科大学附属病院の新棟はとても広々としていて清潔感があり、日本の病院のように様々な設備が整っていました。また、日本の大学生が実習を行っているところを見学させてもらったり、現地での実習に関して話を聞いたりすることができました。実際に血圧を測ったり、現地の看護師や医療職者の方から指導を受けたりしていて、どの学生もとてもいきいきと現地の医療や看護を積極的に学んでいる様子でした。私たちが訪問した時期はホーチミン医科薬科大学の学生も夏季休暇とのこともあり、直接看護学生との交流は行えなかったのですが、ホーチミン人文社会科学大学の学生との交流や、実際に現地の看護師さんや患者さんとの交流を通して、国や言語が異なっていても、ちょっとした現地の言葉による挨拶や表情、伝えようとする気持ちを持つことが重要であることや看護について基本的な考え方は同様であること等を実感することができ、次回学生が行く機会があれば、ぜひ現地の看護学生とも積極的な交流等がはかれるとよいのではないかと思いました。そしてこれから、本校においても多くの学生が国際交流へ興味を持ち、交流を通して看護についてお互いに学びを深め合っていければと感じました。

ホーチミン医科薬科大学を訪問して

私は昔から国際交流に興味があり、将来は海外ボランティアに参加したいと思っています。このような理由から、今回の交流に参加することを決めました。

ベトナムに降りたってまず驚いたことは、道路一面がバイクで埋まっていることでした。そして、3,4人の家族が一台のバイクに乗っていることにも衝撃を受けました。ベトナムはこのような事情によって、交通事故が多発しているようです。そのため病院には交通事故で怪我をした患者さんが多くいました。またベトナムの病院のその他の特徴としては、熱帯病専門の科やハンセン病患者さんが生活する病院があることだと思います。実際にハンセン病患者さんの潰瘍の消毒などのケアを体験させていただき、大学で学んだ方法との共通点などを学ぶことができました。病院見学では、一般市民がかかることのできる病院と日本の一般的な病院より設備が整っているような新しい病院との違いを知ることもできました。患者さん方は私のつたないベトナム語を理解しようとしてくださり、とても好意的に接してくださいました。患者さんとの関わりで、言葉の壁があっても看護の心は伝わると感じました。これらのこと以外にもまだまだ書ききれないほどの学びがありました。

自分の中で今回の交流の一番の目的は海外の友達を作ることでしたが、交流を通して多くのベトナム人の友達ができました。日本語を学ぶ人や日本人なら誰でも参加できる「東日クラブ」に誘ってもらい、日本語でゲームをしたりテーマについて話し合ったりと有意義な時間を過ごすことができました。帰国後も時々ですがフェイスブックなどで関わりを持つことができています。文化は違っても、現地の学生は日本の学生と同じように学び、時には息抜きをし、日本で働きたいなどの目標に向かって頑張っていました。

国際化が進み、英語の必要性が高まっている現在、看護においても英会話は重要なコミュニケーション手段であると感じています。今回の交流から英語で自分の思いを伝えられないもどかしさを感じました。3年後期からは英語の授業はありませんが、これからも英語を学んでいきたいと思います。サポートしてくださった先生方、事務の方はもちろんのこと、4月から出発まで英語を指導してくださり、交流の参加を後押ししてくださったサイモン先生に感謝しています。この学びを将来に役立てたいと思います。

ふれあい実習を終えて

ふれあい実習を終えて

私たち1年生は10月6日から8日までの三日間、上越市の大島区、牧区、浦川原区、安塚区にて「ふれあい実習」を行いました。この実習では「地域の人々との交流を通してその日常生活の成り立ちや生活の基盤となる価値について理解し、生活者の視点に立って考えることができる」ことや、「地域に暮らす人々にとってより良い生活を実現するために必要な方策と看護が果たすべき役割について理解する」ことを目標に取り組みました。私たちのグループは安塚区を訪れ、「地域医療」、「過疎化」、「雪」、「四季のイベント」などをテーマにとりあげました。

「地域医療」に関しては、安塚区には雪だるまクリニックがありますが、大きな病院に行くためには車やバスといった交通手段が必要です。車を持っていない場合は、交通手段が確保できず緊急時の対応が困難なことがあるということです。そこで必要となってくるのが訪問看護だということに気がつきました。また、安塚区に住んでいる方々からお話を聞いて、過疎化がとても重大な問題だと分かりました。その過疎化を引き起こしている原因が安塚区での仕事不足で、若い人が安塚を離れていくのです。したがって、豪雪地域の安塚では若手が少ないため、屋根の雪下ろしや、家の周りの除雪をお年寄りの方が行わなければなりません。このような点からも健康の管理が重要視されます。

その一方で、この地区の方々は過疎化に立ち向かっていることを理解しました。それは、四季を通して多くのイベントを開催し、多くの方々から安塚区に来てもらうことを考えているということです。4月の「リバーサイド観桜会」、10月の「黄金の回廊柳葉ひまわりin安塚」や2月に行われる灯の回廊「安塚キャンドルロード」です。その他にも多くのイベントがあり、一人ひとりが役割を持ち、協力しながら盛り上げているということです。

安塚地区の方々は自分の趣味や個性を大切にしていると感じました。「絵画」、「農作業」、「旅行」、「近所でのお茶会」などたくさんの生きがいをとおして、近所との付き合いが生まれ、この地区での繋がりや団結力を強くしていると感じました。「ふれあい実習」で、多くのお年寄りの方々との交流を通じ、一人ひとり異なった人生、価値観、文化、生きがいなどがあることを改めて実感しました。このことをいかして、将来看護師になった時に患者さんの身体の健康だけを考えるのではなく、その人にしかない個性を理解して、適した看護ができるような看護師を目指して、日々精進していきたいと思います。

ご協力くださいました安塚区の皆さま、ありがとうございました。

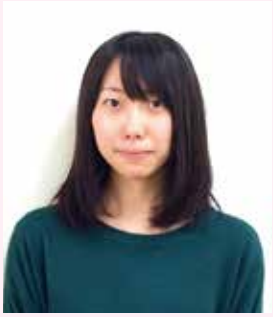
基礎看護学実習を終えて

今回の実習では、初めて患者さんを受け持たせていただき、普段の授業の中では得ることのできない多くの事を学びました。実際に患者さんを受け持ち、ケアを実施することは、学校の授業において生徒同士でケアの練習を行う時とは全く違った緊張感でした。また、患者さんの情報は毎日更新されていき、授業で取り行ったペーパーペイシェントのように紙に書かれた情報だけを元にケアを考えるのではなく、日々移り変わる患者さんの状態を考慮しながら、一番必要とされているケアを選択することの難しさを感じました。実習では、特に患者さんとコミュニケーションを図る中で得られる情報の大切さを感じました。コミュニケーションを通して、その人の人柄の他に生活背景が見ることができるので、患者さんと信頼関係を築くだけではなく、患者さんの精神的なケアに必要な情報を得る事もできると思いました。今後、患者さんと接する際には、入院前の患者さんの生活にも注目してみることも大切にしていきたいです。

この実習を通して、多くの課題と経験を得ることができました。電子カルテからの情報や患者さんと話す中で知った情報を元に、援助計画を立て、受け持ち患者さんと接することで、自分に何が足りないのかが少しずつ見えてきたように思います。また、援助計画を立てても、毎回予定通りに計画を実施できるとは限りません。実習の中で予定通りにいかない事があると、自分の中に焦りや不安が生まれてきました。ですが、患者さんによりよいケアをする為には、自分が落ち着いた状態でいることも重要な要素の一つであると思うので、どんな状況でも臨機応変に対応できる力をつけていきたいと思っています。

今回の経験は、これから看護についての学習を深めていく中で、貴重なものとなりました。受け持ち患者さんとの接し方や、電子カルテや患者さんとのコミュニケーションを通した情報収集、援助計画の立案・実施は、学校の中では出来ない経験であるので、今まで自分になかった視点を得ることにもつながりました。これから実習の中で見つけた課題をもう一度見つめなおし、今後の学習の中に活かしていきたいです。

総合実習を終えて



私は、総合実習で成人看護学の救急看護・集中治療ケアコースを選択しました。救急領域は、医療チームが一丸となることの重要性がどこよりも高い領域であると思います。処置や検査、治療が円滑に行われるためには、相手に正しく伝わるように1人1人が声を出してそれぞれの役割を果たすことが重要であると学びました。普段から患者の救命に携わる各職種同士が良好なコミュニケーションをはかっていなければこのように円滑に対応出来ないと感じました。

集中治療室では、モニターや様々な医療機器による24時間途切れることのない全身管理に加え、看護師自身の目でしっかりと確認し、患者さんの小さな変化や異変も見逃すことの無い観察力の重要性を感じました。また、救命や集中治療が必要な患者さんは非日常的な空間の中、多くの医療機器に囲まれながら痛みや不安、希望や絶望感など、様々な心情を抱いています。1番患者さんの近くに居ることが出来るのは看護師なので、身体面の管理はもちろん、回復を支えるためには精神面への介入も欠かすことは出来ません。家族にとっても救急外来や集中治療室にいるということだけで不安は大きく、さらに生命の危機状態にある大切な人を目の当たりにすることは想像を絶する強い衝撃であると考えます。

看護師には、患者さんの救命・生命の維持、治療に関することから療養生活の支援や精神的なサポート、家族ケアなどあらゆる面での役割があり、看護師はチーム医療のキーパーソンであるということを実習の中で実感することができました。

また、今回の総合実習は学生生活最後の実習となりました。実習を通して、看護師の大変さを実感するとともに、その魅力ややりがいを再確認し、充実したものとなりました。長かったようなあっという間であったような実習、自分1人では絶対に乗り切ることが出来ませんでした。病院の看護師さんをはじめ多職種の方々、先生方、仲間や家族に支えられて今の自分がいるのだと感じています。本当にありがとうございました。

平成26年度上越地域看護研究発表会、平成25年度地域課題研究発表会

9月20日の午前に平成26年度上越地域看護研究発表会、午後に平成25年度地域課題研究発表会が開催されました。上越地域看護研究発表会は上越地域の各病院や地域に所属する看護職の看護連携を図る目的で、各機関から13題の研究発表が行われました。(参加者113名)

また、地域課題研究発表会では、新潟県内の保健・医療・福祉に携わる看護職(看護実践家)と本学教員が共同して地域の看護実践での課題解決に向けた研究を行うもので、8題の研究発表が行われました。(参加者67名)

どちらの発表会も、地域の看護の質をより高めるために、活発な意見交換が行われました。

地域看護学 助手　久保野　裕子

はじめまして。地域看護学の助手として勤務させていただいております。私はこの大学の1期生で、ここで学生時代を過ごしました。卒業してもうすぐ10年が経とうとしていますが、自分達が思考錯誤しながら作ってきた「桜蓮祭」や「継燈式」が当時と変わらない姿を残していることに大きな喜びを感じます。また、私の頃にはなかったサークルも登場していて、後輩達がどんどん新たな歴史を築いてくれていることも嬉しく思います。

さて、私はこれまで産業保健師として労働者の健康管理の仕事をしてきました。産業保健師というのはまだまだマイナーで、産業保健師を目指そうという学生さんはそう多くはないと思います。私ももちろん初めから産業保健師を希望していた訳ではありません。けれども、いざ産業看護の世界に飛び込んでみると、本当に面白い世界でした。会社という狭い集団ですので、個をより身近に感じ、対象者と密接な関わりができるのは産業保健師の特権ではないかと思います。また、集団への働きかけにおいても社長がAと言えばAになるし、Bと言えばBとなる世界です。会社という組織をどう使い、どう仕掛けたらうまくいくかを考え、会社全体を動かすことができた時の喜びは一入です。産業看護も、もちろん活動の基盤は公衆衛生看護学。対象者の気持ちに寄り添い、様々な人たちと連携をはかりながら情報収集し、アセスメントし、健康相談や健康教育へとつなげていくプロセスは同じです。これから公衆衛生看護学での学びを通して、少しでも産業看護に興味を持ち、この大学から一人でも多くの後輩産業保健師が誕生することを期待しています。

プライベートでは、現在一児のママとして子育てに奮闘中です。毎日慌ただしい日々を送っていますが、子どもと共に自身も親として成長していけたらと思っています。

微力ながら、これから地域看護学の教員として、また大学の先輩として、少しでもみなさんの力になれればと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

老年看護学 助手　真貝　早悠里

10月より老年看護学の助手としてお世話になっています。すでに3年生と4年生の一部の学生さんには領域別実習や卒業研究でお会いしていますね。みなさんのいきいきとした姿に刺激をうけ、まるで私も学生時代に戻ったかのような充実した日々を過ごさせていただいています。

本学の卒業生である私は、現在の仕事に愛着を感じています。私が学生の時にお世話になった先生方をはじめとした、懐かしい方々との再会や、後輩であるみなさんに関われることはとてもうれしく思っています。

大学卒業後は上越市内の病院で看護師として働いていました。内科・血液内科、小児科・眼科混合病棟の勤務経験から、幅広い年代の患者さんと接する機会がありました。特に血液内科では、慢性疾患を抱え入院している方々と接する中で「早く家に帰りたい」と言う方がたくさんおられることが印象的でした。これまでの人生やこれからの人生に目を向けたとき、地域で疾病を抱えながら生きてゆく方々にどのようなケアが行えるのか、疾病に目を向けるのはもちろんですが、何と言っても「その人の生活や人生」について考えたいと考えるようになりました。今回、縁あって老年看護学の領域に携わることになり、こうした生活や人生について特に考えを深める機会を得ています。

私の趣味はスノーボードと登山(山菜採り)、家庭菜園です。最近では、白馬岳や火打山に登りました。それらが気軽にできるこの環境がとても好きです。みなさんはいかがですか？「田舎だから…」「雪が多いから…」とはいえ、自然豊かな上越での暮らしは、それがない所に住む人にとっては幸せなことだろうと思います。趣味を通して様々な人と出会い、様々なライフスタイルがあることを知り、人生経験が深まっています。

臨床経験が少ないので、看護師としてもまだまだ未熟ですが、先生方や事務局、学生のみなさんと一緒に学び、成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

災害看護サークル

私は、10月11日、12日に神戸市で行われた「全国公立大学学生大会LINK topos」に、大学代表として学生2名と先生1名で参加してきました。この学生大会では、他大学・地域・団体から学び、「大学・地域をより良くしたい」という想いを持っている学生や教職員が集まり、意見交換などを行う場です。2日間かけて、ポスターセッションとワークショップを行いました。

ポスターセッションでは、各大学ごとに地域貢献に関するポスターを作成して、大学を超えた情報交換を行い、自分の活動に生かせそうな部分などについて活発に意見交換をしてきました。

ポスターセッションの様子

私たちが地域貢献活動として行ったのは、地域住民向けの劇とハンドマッサージです。上越市では農作業従事者が多いので熱中症予防の劇を行い、地域での健康を呼びかけました。ハンドマッサージは心を癒すことを目的として始め、現在は、大学近くの介護施設の利用者を対象にケアをしています。

ワークショップでは、「地域における学生・教員・職員の理想的な協働を考える」を題として、この3者がどのような形で寄り添い協力して大学や地域の問題解決を目指すのか、具体的な企画立案を通じて全国の公立大学の学生や教職員と考えました。地域の問題を抽出し、実際に実施可能な地域貢献活動をグループで考えることが目的です。最優秀賞を獲得したグループでは、学外での大学祭を提案していました。学生と地域住民の関係をより強くするために企画し、全グループの中でも最も実現可能に感じられました。

学生大会に参加して、学生と教職員が協働することの難しさを感じ、それ以上に協働することの素晴らしさを感じました。また、一つの角度からだけではなく、多方面から一つの物事を見ることが大切だということを学びました。

今回の経験を通して、地域貢献活動は自分が考えていた以上に幅が広く奥が深いものであると実感しました。地域が抱える問題は様々なので、どのようにアプローチしていくのか、これからも考えていきたいと思います。

よさこいサークル

私たちよさこいサークル「蓮華団」は、「踊りを見てくださった方を笑顔にすること、自分たちも楽しむこと」をモットーに活動しています。主な活動内容は、普段の練習に加え、ご依頼を頂いた先での演舞、学祭での発表です。地域のお祭りや、敬老会、スポーツフェスティバルの閉会式など今年は特に多くのご依頼を頂き、地域の方々とお話する機会が増え、充実したサークル活動を送ることができました。学祭は、全学年揃って踊ることのできる滅多にない機会で、練習の合間にテストや実習のアドバイスを聞くなど、先輩後輩で触れ合う時間の少ない大学生活の中では、大変貴重な時間でした。学祭当日は、来場してくださった方々からお褒めの言葉を頂いて、「私たちの踊りで、見てくださった方を楽しませることができる」と強く実感しました。

また、今年は毎年9月に新潟市で開催されるにいがた総おどりに参加するという挑戦をした年でもありました。1・2年生で参加することになり、練習を週2回に増やし、テストや実習と両立させながらの挑戦でした。当日は、自分たちの踊りは勿論のこと、多くの参加団体の踊りも楽しむことができました。特に、ご年配の方々で編成されたチームの輝くような笑顔が、今でも強く印象に残っています。身体を動かせる、笑顔でいられる、心身ともに健康でいられることの大切さを体感しました。

1年間サークル長を務め、至らないところもたくさんありましたが、サークルのメンバー、顧問の竹原先生の支えもあり、役目を全うすることができました。よさこいサークルに関わって下さった学校・事務局の方々、それから私たちの演舞を見て下さった方々に、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

桜蓮祭での発表の様子

陸上競技サークル

陸上競技サークルのサークル長の渡邉舞子です。このサークルは、2014年の7月に結成したばかりの新しいサークルです。このサークルが発足された経緯からお話ししたいと思います。私は高校3年間陸上競技部に所属し、中長距離を専門としていました。当時は速くはありませんでしたが、部員と60分間のジョギングや駅伝、ハーフマラソンに参加しており、走ることが好きでした。3年間毎日のように走っていたので、高校を卒業してしばらくすると、走りたい気持ちが高まり、サークルを作りたいと考えるようになりました。3年になり、同学年の陸上経験者の友達に連絡をとり、陸上競技サークルは発足されました。いざ発足するとなると、人員・担当教員・サークル届など書類を書いたり人数を集めたりで、面倒と思うときもありましたが、走りたいという同じ思いを持った人に集まって頂き、どうにか今日までサークルを継続できています。

サークルメンバーは1年生がほとんど、3年生が数名で構成されています。特に2年生と4年生のメンバーを現在募集しています。私は現在実習中であまりサークルに参加できていませんが、1年生が主体となり、サークルを盛り上げてくれています。週に1回の活動で60分程度ジョギングをしていますが、春になったら陸上競技場も借りられたらいいなと考えています。走るのは苦手だけど痩せたいな…、歩くだけじゃだめかな…、体育の授業も終わったけど運動したいな…、と思いながら誌面を読んでくれている学生の皆さん、是非一度ご参加ください。メンバー皆で和気藹々と活動しているので、すごく楽しいですよ。一緒に楽しみながら活動しましょう。皆さんの参加をお待ちしています！

皆でストレッチをしています

バレーサークル

こんにちは！バレーサークルです！バレーサークルには全員で約60人が所属しています。毎週火曜日の18時～20時まで、みんなで試合をしながら楽しく活動しています。本サークルに所属している人の約半分がバレー初心者ですが、初心者の人でも楽しい！やりやすい！と思えるような雰囲気を作れるように心がけています。また、先輩・後輩間でつながりが持てるよう、サークル内の仲がもっともっと深まるように、チーム替えをしながら、全員と関わりが持てることを意識しながらチームを組むようにしています。初心者と経験者の入り混じった試合は、いつも笑いが絶えず愉快で、私は大好きです。

日頃のバレー以外にも、楽しい企画がたくさんあります。中でも、『夏の大合宿』は、年に1度の大イベントなので、みんなが楽しみにしているイベントの1つです。今年は、長野県の黒姫高原にあるロッヂに1泊2日で行ってきました。毎年、様々な楽しい企画を計画しますが、今年は、ファンタカップ（バレーの試合）、流しそうめん、バーベキュー、スイカ割り、ボーリング大会などを行い、みんなで夏を満喫しました！写真は、学校で流しそうめんをしている様子と、泊まったロッヂをバックに撮影した思い出の2枚です。一緒に合宿の計画をしてくださった先輩方、参加してくださった皆さんのおかげで、今年の合宿も大成功に終わり、素敵な思い出を作ることができました。皆さん、本当にありがとうございました。来年も、楽しい企画を盛りだくさん用意しますので、たくさんの方々の参加をお待ちしております。

そんな今年のバレーサークルの活動も、残りわずかとなってしまいました。4年生と一緒に活動できる期間も少なくなってしまい、寂しい気持ちでいっぱいです。4年生との残りの時間を大切にしながら、仲がもっともっと深まっていけばいいなと思っています。今後も、楽しいサークルをメンバー全員で作っていきたいと思います。

皆で流しそうめんをしました

合宿先のロッヂでの記念撮影

新潟県立看護大学振興協力会設立総会

地域の企業、行政や個人の皆さんから、私たちの大学の教育・研究をご理解をいただき、めでたく平成26年7月30日に新潟県立看護大学振興協力会が立ち上げられました。

今後、大学と地域との交流をさらに推進するとともに、教育・研究等の発展・充実を目指します。

ウォーキング&健康づくり体験

11月8日、新潟県中越大震災10周年復興感謝キャンペーン、防災・減災プロジェクト2014として、ウォーキング&健康づくり体験（主催：上越はつらつ元気塾）が行われ、本学がスタート・ゴール地点となり、多くの方々にご来学頂きました。当日は、健康づくり体験として、学生による血圧測定やハンドマッサージ等も行われ、参加者の方々と楽しいひと時を過ごすことができました。

血圧測定を行いました！

ハンドマッサージも行いました！

いきいきサロン

健康に関心のある皆様が気楽に集いながら、知識を深める市民公開講座の「いきいきサロン」ですが、今年度は計6回、649名の方にご参加頂きました。昨年度と同回数にも関わらず、100名以上も参加者が増加し、通算では3000名以上の方にご参加頂いたこととなり、スタッフ一同感謝申し上げます。次年度も皆様のご要望等を参考にしながら、楽しい時間を過ごせるよう準備しておりますので皆様ぜひおこし下さい。
（写真は、第5回のサロン「肩こりについて」の様子です）

新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing

〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地
Tel 025-526-2811　Fax 025-526-2815
E-mail soumu@niigata-cn.ac.jp

編集後記

今回の26号では、サークル活動等の学習以外の様子や活動について注目して作成しております。看護大学というと、講義や実習で大変というイメージが強いと思います。ですが、そのような中でも学生間や地域の方々との交流を深めながら、成長している姿を目にすることができました。今回の記事を通して、そんな学生の姿が少しでも皆様に伝わればと思っております。

入試・広報委員：渡邉　千春

http://www.niigata-cn.ac.jp
発行日：2015年1月23日

PRINTED WITH SOY INK
R70 古紙配合率70%、白色度70%の再生紙を使用しています。